



教育改革の嵐がきた！

高校教育の置かれた現状を、私はよく「教育改革の嵐」と表現します。学習指導要領が変わることも、大学入試が変わることも高校にとってすごく大変なことなのに、それがセットできた。こんな時代は初めてです。

新学習指導要領と高大接続改革に共通するメッセージは新しい時代に必要となる資質・能力、つまり学力の3要素の育成。そのために「主体的・対話的で深い学び」と学習評価を充実させようということです。学校教育法第30条には「基礎的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体的に学習に取り組む態度」が述べられています、と言ってもまだ学力は知識の量や、大学に合格する力だと思われるところもありますよね。改めて、学力とはそもそも何か。私たちにとってあまりにも当たり前で意識することは少なかったと思います。学力観の転換が叫ばれる今は、学力とは何かを意識するいいチャンス。古い価値観と新しい価値観の転換の狭間でこれからどう生きていくか、今、私たち教師に問いかけてられているのではないのでしょうか。

誰にとっても初めてのことでだからこそチームで

2015～16年に、福岡県教育センターでアクティブ・ラーニング（以下A L）の普及啓発プロジェクトに取り組みました。教育指導部長として最初に伝えたのは「A Lって何か、まだ誰もわからん、だからこのメンバーの中ではわからんことはわからんって言おう」上下関係なくフラットに思いや情報を共有しましょうということでした。そうすると人数の分だけ知恵が集まり、お金持ちならぬ知恵持ちになるんです。みんなが。

今度の教育改革も、みんなにとって初めての事です。校長でも教頭でも一教員でも一緒。だから一人でやらず、みんな同じところから、チームで取り組みませんか。一緒に学び合っているメンバーの数だけ脳が拡大するのがA Lの真髄です。安心安全な場を作って、意見をどんどん出す。どんな意見も一旦受け入れる。「互恵・共創・集合知」です。先生方が描く学校づくりにA L型で取り組んでいけたらいいなと思います。

誰もが未来の創り手になる時代 この変化に教師として 立ち会える喜び

福岡県立城南高校 校長
和田美千代

今ここにある教育改革の波に学校は、そして教員一人ひとりはどう向かっていけば良いのでしょうか。この4月から校長として城南高校に3度目の着任した和田美千代先生に伺いました。誰もが未来の創り手になる時代だからこそ、先生方がチームで取り組むことが大切だと言います。

取材・文／江森真矢子 撮影／西山俊成

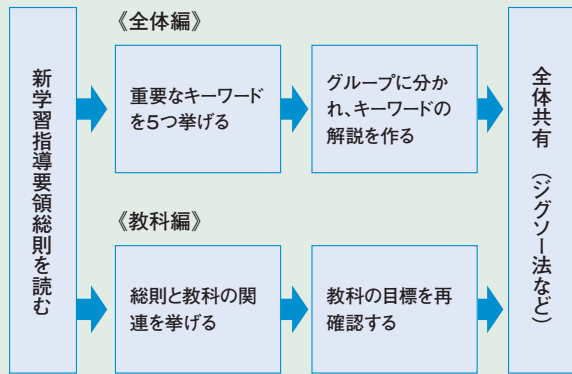




教育改革にチームで備える、校内研修のすすめ

<学習指導要領編>

- ① 総則を読んで全員が付箋にキーワードと思うことを書き、貼り出す
- ② キーワードを5つ(人数やグループ数により増減)に絞る
- ③ ジグソー法のエキスパート活動で5つのキーワードの解説を作る
- ④ ジグソー活動でそれを共有する



<高大接続改革編>

- ① 大学入学共通テストのプレテストを各教科で解く
- ② プレテストの要点をグループで考え、全体で共有する(ルーブリックを提示)
- ③ 教科を横断する共通項や、力をつけるための取組について話し合う

新テストの説明に関するルーブリック

課題：共通テストプレテストの要点を(旧テストと比較しつつ)他教科の先生方に説明する

	さすが!	その調子!	がんばって!	
評価観点	形式の特徴	新テストの出題形式にした狙い、求める力を説明している	出題形式の変化を新旧比較して説明している	形式の特徴が述べられていない(つかめていない)
	内容の特徴	新テストの内容にした出題の狙い、求める力を説明している	内容の変化を新旧比較して説明している	内容の特徴が述べられていない(つかめていない)
	授業の変化	どんな授業にしていくなか本質をおさえつつ具体的に例をあげて述べている	どんな授業にしていくなか抽象的に述べる、もしくはHow toを述べている	授業への影響を考えていない 授業を変えようとしていない
	他教科の先生方へアドバイスとして伝えたいこと	教科にかかわらず、どのような教育の質が求められるか述べている	他教科との共通点を見出している	他教科とのつながりを考えていない 自分の教科の域を越えようとしていない

メッセージを読み解き 自分の言葉で語ろう

校内研修で共通認識を

具体的に何をやっていけばいいのかわからない、まずは3月に公示された新学習指導要領の総則を読むことではないでしょうか。前回の改訂時は城南高校の教頭でしたが、総則に書かれていることを自分の教科で言うかどうか、校内研修をやりました。総則に書かれている理念をみんなが共通理解としてもつことが大事だと思います。

は自分の言葉で語る。説明できて初めて理解できたと言えるんです。先生方にも思考力・判断力・表現力が求められます。

具体的には、まず3月に公示された新学習指導要領の総則を読むことではないでしょうか。前回の改訂時は城南高校の教頭でしたが、総則に書かれていることを自分の教科で言うかどうか、校内研修をやりました。総則に書かれている理念をみんなが共通理解としてもつことが大事だと思います。

もう一つは、大学入学共通テスト試行調査(プレテスト)の分析です。まずは自分で解いてみる。試行調査のメッセージを解読すれば、求められる力が理解できます。先生方に馴染みのある入試分析と同じで、一種の逆向き設計。予想問題を作ってもいいですね。最初にゴールを理解することでやるべきことも見えてきます。上に紹介したルーブリックはある勉強会で実際に使ったものですが、大事なのは自分たちの授業をどう変えるかということです。ただ、具体論になると授業に目がいきがちなので、全体を見通すこともポイントです。

今回であれば、上記のような研修をA型でやってみてはどうでしょうか。一つは、総則の内容をジグソー法で理解するというもの。みんなで総則を読んでキーワードを抽出し、エキスパートグループに分かれて解説を考える。その後、ジグソー活動によって共有し、元のエキスパートグループに持ち帰り、共有するという方法です。

どちらも、その後に教科の目標を話し合ってもいいですね。5教科が発表をすれば、教科を横断して求められる力が何かかわかり、それは全教科でできることにつながると思います。また、学校行事、特別活動や総合学習でどう取り組めば良いのかも見てくるのではないのでしょうか。

予習する時間はないでしょうかから、全員で一緒に読む。そしてアウトプット予告、つまり発表があると伝えることで、自らのものにしようというインテイクスイッチを入れる。大事な

予習する時間はないでしょうかから、全員で一緒に読む。そしてアウトプット予告、つまり発表があると伝えることで、自らのものにしようというインテイクスイッチを入れる。大事な



大切なのは「互恵・共創・集合知」

学校教育目標と教科の目標、学年の目標がきちんとつながっていることが大事なんだと思います。各目標は、綺麗に書かれている言葉を、自分の言葉で表現して他の分掌や教科の人に伝えてもらいたい。そうしたら目標をみんなが共通認識できると思います。具体的に生徒が「○○できるようにする」というレベルでの目標を共有しようというときに、管理職からのトップダウンでやっては絶対に浸透しません。

思いを語るって「助けて」と言うって

つまり、組織としてやるということ。組織の目標を各人が自分ごととして考え行動できているとき、組織は一番いいパフォーマンスを発揮できます。新しい学習指導要領について学ぶ、もしくはカリキュラム・マネジメントのプロセスを通して、育てたい生徒像、各教科の役割や目標が明確になっていくでしょう。そのとき、目標の言葉に魂を込められる先生はきっと熱く、本当に面白い授業を展開していくと思います。

新学習指導要領では教職員の連携

と協働性も問われていると思います。学校はもともとたくさん先生の先生が関わることで生徒が育っていく場所。たくさん先生の先生たちが教科を超えて連携したらいいと思うんです。人からヒントをもらえると自分の授業が豊かになります。逆に自分の発信が誰かの役に立つということもあります。

例えば国語で月の和歌を扱うとき、理科の天文関係、数学の正弦定理に触れることができれば生徒の学びは深くなります。これからは教科を超えた学び合いが盛んになるのではないかと期待しています。先生が連携をするためには共有、これがすごく大事です。思いを語るって、そしてアイデアを求めることです。困ったことがあるときは思い切って「助けて、これがわからない！」と言えば、周りの人が自分のできる範囲内で知見を持ち寄ってくれます。

助けを求められたときに、立派なことを言う必要はありません。立派なことをホーンと言えたら誰も苦労しません。どうしたら授業を良くできるか、どうしたら生徒が喜ぶか、自分の実感レベルで、本音でものを言



うことです。

一人ひとりが未来の創り手

答申(※)の中の「予測困難な時代に、一人ひとりが未来の創り手となる」という言葉は私たち教員に対してのメッセージでもあると思っています。あなたの学校の教育活動をどうするか、この1時間の授業をどう作るか。あなたがクリエイターだ、ということですね。

今の時代は、私たち教師がより良いものに変えていける、こうしたいと思っていることを形にできるチャンスなんです。そのためには、夢や希望を語り合い、周りを巻き込んでいくこと

わだみちよ ●1983年福岡県立高校教諭に。86年に城南高校に赴任。94年に進路探究学習「ドリカムプラン」を立ち上げ、自己探究・自己啓発・自己実現のステップで意欲を育むプランは全国から注目を浴びた。03年からの5年間は筑紫丘高校勤務。文部科学省の各種委員や調査研究者としてもキャリア教育を推進してきた。モットーは「常に先を読み、先を走るのが進路の仕事」。08年には城南高校に教頭として再赴任。修猷館高校、早良高校で管理職を勤めたのち、15年より福岡県教育センター教育指導部長として県全体の授業改善を牽引。昨年度は福岡県教育委員会高校教育課主幹を務め、この春から3度目の城南高校に校長として着任。始業式の校長式辞は生徒が考え表現するAL型で行った。

です。発信して初めて自分はこんな風に思っていたんだ、と気付いたり考えを整理することができます。

来るべき2020年は私の退職の年。あと2年です。このワクワクする変化に間に合っただけよかった、この時代に教師として立ち会えてよかった！私は、どの先生も必ずいいアイデアをもっていると思います。一緒に、未来を創っていきましょう。